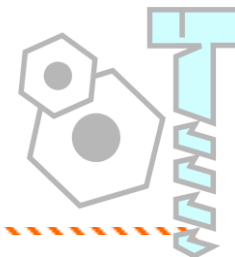




業種別部会長シンポジウム



機械金属部会

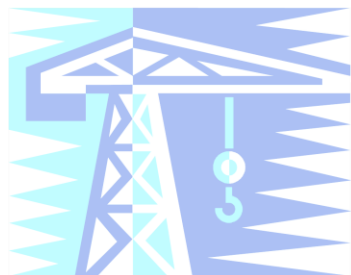
「2011年の回顧と2012年の展望」

業種・分野別分類

1. 鉄鋼(鋼板)
2. 電力及び社会インフラ
3. プラント機器
4. 建設機械
5. 産業用圧縮機
6. 農業機械
7. 各種工具/計測機器
8. 潤滑油

2012年 2月14日

伯三菱重工業 西岡



1.鉄鋼(鋼板)

2011年の回顧

概況

国内粗鋼生産量:

上期:1770万ton(前年比 +6.2%)

3Q : 889万ton(前年比 +8.2%)

2011年通年予想: 3526万ton

上期は好調だったものの下期で減速

輸出:

1000万ton超の見込み(前年比増)

CSAスラブ製鉄所が本格稼働し、
北米向鋼塊・半製品が輸出を牽引

輸入:

予想:360万ton (前年比 ▲37.9%)

加工製品輸入予想:500万ton前後

2012年の展望

概況

国内粗鋼生産:

2012年の予測 3,750万ton

過去最高の2011年から+6%増加する
見込み

輸出:

鋼塊・半製品輸出は引続き高水準
鋼板製品類は欧州危機等の影響で
横這い乃至は減少

輸入:

2011年の水準で推移乃至は若干減

自動車分野等の需要は堅調に推移し
インフラ向も増加する見込み

2.電力 及び 社会インフラ

2011年の回顧

概況

Petrobrasの大型投資が継続され、経済の牽引役・原動力、波及効果大。但し、上流部門(プレサル)に偏っており造船等への投資には積極的だが、プラント機器等への投資は不十分。

2011年電力オークションは実施されたが、Petrobrasが2016年までガス供給を保証しないと発表しガス火力での入札はほぼ停止した。

インフラ関係大型プロジェクトは入札が遅れており高速鉄道は流札となりスキーム変更予定。サンパウロメトロは工事再開。

2012年の展望

概況

Petrobrasの大型投資は計画に対する実施率は70%前後と低いものの引き続き国内経済の牽引役として期待大。造船関係での遅れが拡大しプレサル開発が遅れる恐れ有るが、船用機械拡販に期待。

ガス火力はA-3電力オークションでは応札が無く、A-5では出て来る可能性がある。全体に低調と予測

高速鉄道は上下分離での入札が年内に発照される見込み。その他の都市交通、道路、空港拡張等の社会インフラ関係も発注される見込み。

3.プラント機器(紙パルプ・石油化学・エタノール等)

2011年の回顧

概況

紙パルプ業界

国際競争力のある業界であり2010年から設備投資が回復して2012年決着の大型商談が出てきた。

石油化学業界

Petrobrasの設備投資は相変わらず好調で他社を含め意欲的である。

鉄鋼・非鉄業界

製鉄所の老朽設備更新、省エネ対策が計画されたが具体化は遅れている。

エタノール

砂糖価格の高騰により国際競争力が低下し設備投資には動いていない。

セメント業界

W/C、オリンピックに向けて設備投資を積極的に行った。

2012年の展望

概況

紙パルプ業界

本年に大型商談が決着する見込みだが世界的な景気後退リスクに要注意。

石油化学業界

PB案件はペトコーク焚ボイラ等好調に推移しBraskemも国内投資増。

鉄鋼・非鉄業界

世界的には供給能力過剰であり、生産能力増強よりも生産効率向上のための投資が出るものと予想。

エタノール

業界の競争力向上のためにBNDESが4Bレアルの融資枠を決定した。

セメント業界

排熱発電設備の販売拡大が期待される。

4.建設機械

2011年の回顧

概況

総需要台数

1Q: 2782台(2010-1Q比 21%増)

2Q: 3052台(2010-1Q比 33%増)

3Q: 2862台(2010-1Q比 25%増)

4Q: 2518台(2010-1Q比 10%増)

2011年計 11214台(2010比 +4%)

公共工事・プロジェクトの遅延により
需要の伸びは年後半で鈍化した。
GDP成長5%+公共工事伸び5%で
10%の伸びを見込んだが予想程には
伸びず。

2012年の展望

概況

総需要台数

2012年の総需要予測は11.8千台で、
2010年比9%の伸びとなる見込み。

急激な需要増は期待薄いものの、中
長期ではインフラ関連工事による需要
増が期待される。

5.産業用圧縮機

2011年の回顧

概況

食品業界

2010年比 ▲20%

飲料業界(ビール、清涼飲料水)の設備投資が堅調だが2010年程には伸びず。鶏肉産業の設備投資は堅調だが、牛肉/豚肉産業は苦しい状況。

ペトケミ業界

2010年比 ▲40%

PBのプレサル案件で漸く需要が動き始めたが、まだ売上にはなっていない。飲料業界の伸びを受けてCO2製造装置・冷却設備の受注がやや好調だった。

2012年の展望

概況

食品業界

2011年比 +20% 予想

飲料業界では引続き設備投資案件があり継続した引合いがある。鶏肉産業は引続き好調で自動化機械・冷却設備の投資に期待。牛肉/豚肉業界では輸出が僅かながら復調しており冷蔵庫設備に期待

ペトケミ業界

2011年比 +30% 予想

PBプレサル案件での受注活動が本格化する見込み。売上は2012年以降それ以外のケミカル業界ではガス圧縮装置の受注に期待。

6. 農業機械(小型ディーゼルエンジン含む)

2011年の回顧

概況

エンジンビジネス

2010年比 -29%(台数)、-21%(金額)
の落ち込み

米作用作業機向多気筒エンジンと
単気筒エンジン販売が大きく落ち込み

トラクタービジネス

2010年比 -5%(台数)の落ち込み
小規模農家支援策Mais Alimentos
により小型トラクター販売は昨年まで
活況を呈してきたが、これも一巡した。

小型建機ビジネス

小型バックホー輸入が前年比2倍

2012年の展望

概況

エンジンビジネス

2012年のエンジン販売は若干の回復
を期待。単気筒エンジン販売は地方
の電化による市場縮小・安価な中国
製エンジンの流入により低迷を予測。

トラクタービジネス

2011年7/1よりMais Alimentosに代
わる新たな融資制度が導入されたが、
小型トラクター販売は若干減少を予測

小型建機ビジネス

都市部での需要の伸びを期待

7. 各種工具/計測機器 (切削工具他)

2011年の回顧

概況

切削工具

市場としては好調で販売も伸びたが、震災・洪水で供給不足によりシェアを落としたメーカーも有った。

チェーン・軸受

上期は好調だったが、下期はレアル高の影響、日系自動車メーカーの減産等による製造業の後退により販売は失速した。

計測機器

販売は2010年比で+14%
教育機関向と輸出が牽引した。

2012年の展望

概況

切削工具

自動車販売の伸びが期待され、市場としては伸びるものと予想されるが、欧州危機等の影響もあり不透明。

チェーン・軸受

市場としては下降局面が続く可能性が高い。軸受では年央からの回復を期待し、チェーンではローカル化による販売拡大を期待。

計測機器

日系企業及び中韓メーカー等が工場建設を予定しており市場環境は良好。

8.潤滑油・金属加工油

2011年の回顧

概況

潤滑油

市場全体としては2011年同期比+7%で堅調に需要が伸びている(1-9月)ベースオイルが不足して各社が輸入する状況になっている。

金属加工油

第1Qでは前年同期比で+6%の伸びだったが、第2Qでは金利上昇の影響もあり落ち、最終的には通年で-1%の販売数量となった。

2012年の展望

概況

潤滑油

ディーゼルエンジンオイル(市場構成32%)、ガソリンエンジンオイル(27%)工業用潤滑油(26%)等の主力製品で引続き堅調な伸びが期待できる。

金属加工油

自動車関連では2011年に比べて大きな伸びは期待できず現状維持となる見込みながら、二輪での回復が期待され合計で+5-6%の伸びを期待。

機械金属部会 全体

2011年の回顧

2010年経済情勢から、各製品共に順調に販売・生産が伸びてきて、上期第1Qはその勢いが維持され各製品共に伸びたものの、第2Qに入って伸びが鈍化し下期はそのまま減速が継続されてきた。

従って、2011年トータルとしては年初に予想していた程には伸びない結果となった。これは高金利政策等の消費抑制、リアル高、欧州財政危機等が効いたものと思われる。

2012年の展望

政府が金利政策を転換し内需拡大に向けて金利を下げてきていること、国内産業の保護を強めていることから内需は横這いか上向くものと予想される。一方で世界的な景気減速により中国向輸出が減少する可能性があり、予断を許さないものと思われる。

社会インフラ関係・プラント機器等では、これまで計画・入札段階にあったものがいよいよ具体化し発注になるものもあり、これらでは大型受注の可能性はある。